

令和3年度鳥取看護専門学校における学校運営評価（自己評価）の結果のまとめ

令和4年9月現在

5点満点評価

評価内容	平均評点	教員自己評価
①学校経営 (5項目)	3.6	<p>単年度組織ミッションを意識し、教職員ひとりひとりが担当業務を遂行した。学校自己評価については、平成26年度から取り組み、その結果をホームページ上で公表を継続している。</p> <p>令和元年から高等教育の修学支援新制度の対象校に選ばれ令和3年度も対象校として継続しており、学生が授業料免除を受けることが出来ている。</p> <p>学校関係者評価委員会を実施して、外部の委員に学校評価に意見をいただき、学校運営に反映させている。</p>
②教育課程・ 教育活動 (14項目)	3.9	<p>第5次カリキュラム改正の申請を行い受理された。新カリキュラムに向けて、シラバスの作成、外部講師との打ち合わせ、新しい実習施設の交渉を行った。</p> <p>新型コロナウイルス感染症に罹患、あるいは濃厚接触者になった学生に対して、学習が継続できるようにリモート授業で対応できた。また、実習が中止になった場合は単位修得のため学内実習やリモートによる現場の指導者のオリエンテーションを実施し、その時にできる工夫を取り入れながら単位を修得できるようにサポートができた。</p> <p>個々の教員は学生の授業アンケート、実習アンケートを実施して次年度に活用している。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の終息の見込みが立たない現在、リモート講義や臨床実習地と学内実習の重複対応で学内の講師の業務が煩雑になっている。</p>
③入学・ 卒業対策 (4項目)	3.8	<p>令和3年度新入生は定員に1名足りなかった。定員割れの対策が必要である。</p> <p>受験生への広報として、コロナ過でWEBオープンキャンパスを開催し、66人の参加があった。ホームページに学校紹介の動画を上げた。また、推薦校に出向き推薦学生の依頼と入学案内の配布をして、高校へのアピールを行った。</p> <p>国家試験対策は特別講義を2年生と3年生に実施した。新型コロナウイルス感染症の影響で県外講師の特別講義は見合わせ、教員による特別講師やウェブでの国家試験対策を3年生に実施した。国家試験の合格率は97.5%であった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症により、実習が中止になった施設があった。学内実習に切り替え単位を修得し卒業できるように計画し実施できた。</p>
④学生生活 への支援 (4項目)	3.5	<p>カウンセリングの特別講義、スクールカウンセラーによるカウンセリングを月に2回程度実施して学生のメンタル面の支援を行った。学業継続のために鳥取県修学資金の貸付、日本学生支援機構の奨学金需給の支援、高等教育の就学支援新制度の対象校として制度の継続手続きを行い、授業料免除支援も継続できた。</p> <p>就職・進学についてはハローワークと連携し個別での模擬面接やエントリーシート の書き方について指導を得た。また、社会人としてのマナーの特別講義を実施した。</p> <p>健康支援として、健康診断をはじめ、新型コロナウイルス感染症の感染予防のためのワクチン接種の支援や、感染予防を考慮した授業方法や食事場所の設定、学生の健康管理をきめ細かく継続しており、家庭内での感染者はあったものの、学内での感染者はなかった。</p> <p>サークル活動も病院職員と協働して、リモートで活動できるよう、機器や場所を提供してサポートできた。</p>
⑤管理運営・ 財政 (4項目)	3.8	<p>災害など非常時については、食糧備蓄更新、救急箱等災害時持出し物品の確認の継続、突っ張り棒の点検は職場巡視で行い、地震に備えヘルメットを入学時に購入している。マチコミアプリを導入し連絡体制を整え、新型コロナウイルス対策の連絡に活用した。全学生を対象に学校運営について学生アンケートをとり、学生の意見を施設整備に取り入れていく。</p> <p>消防設備点検も予算を立てて実施しており、コロナ過で規模を小さくして新入生のみ地震・火災避難訓練を実施した。</p>
⑥施設設備 (5項目)	2.8	<p>教育教材は地域医療介護総合確保基金事業補助金を活用し順次整備している。老朽化した学内のベッド2台更新、2022年カリキュラム改正で求められているICT</p>

		<p>活用能力の育成のため、予算要求では電子黒板を2台要求し1台予算が確定し購入した。さらにもう1台購入のための予算要求を準備している。</p> <p>校舎の老朽化による、屋上の改修工事は令和4年設計の予算が確定し、令和5年度に改修工事の実施予定となった。外壁の老朽化に対して外壁診断が終了したところである。</p>
⑦教職員の育成 (5項目)	3. 0	<p>学会や教育に関する研修に計画的に参加し復命の供覧をし、職員に学びを周知している。コロナウイルス感染症の影響で県外への往来は難しく、オンライン研修を活用し教員の力量形成をしている。コロナ感染症の対応で通常よりも学内の講師の業務が増えており、学会や研修会に参加する余裕がなくなっており、参加者が例年の3割程度になった。</p> <p>看護技術演習など複数教員が協力する場合には教務会で演習について指導方針を協議し演習に臨んでいる。</p>
⑧広報・地域活動 (4項目)	3. 3	<p>オープンキャンパス、高等学校訪問、学校ホームページの掲載、看護協会広報誌などで学校のPRを実施した。令和2年度はコロナウイルス感染症の影響でオープンキャンパスの開催は中止したが、令和3年度はWEBで新たな試みとして実施した。今後も受験生に参加しやすいように継続していく。また、学生に参加をしてもらった動画をホームページで流し閲覧してもらった。</p> <p>鳥取県の実習指導者養成講習会や、県の研修会に講師として教員を派遣した。</p>
平均	3. 5	<p>施設整備を計画的に進めていく。</p> <p>新カリキュラムを円滑に進めていく。</p> <p>新型コロナウイルス感染症に対応した学業継続の支援を続ける。</p> <p>学生確保のための広報の継続。</p> <p>教員の研鑽、学びの共有を行う。</p>